

イサザの分布と生息環境の調査

上野世司・酒井明久・上垣雅史

1. 研究目的

地球温暖化がイサザ資源に及ぼす影響の評価のため、イサザの生息場所と深層の水温、溶存酸素濃度(DO)との関係の解明を目的として野外調査を行った。

2. 研究方法

2010年10月に、琵琶湖北湖に設定した17定点において、沖曳き網によりイサザを採集するとともに、水温の鉛直分布(C-CTD,アレック社)および底層DO(ウィンクラーアジ化ナトリウム変法)を測定した。

3. 研究結果

湖底の水温は8.0~10.9℃の範囲にあった。また、湖底のDOの最低値は水深91.5m地点の3.5mg/L(定点S90)であった(図1)。調査した17地点のうち、14地点においてイサザが採集された(図2)。そのうち、1地点で死亡個体が認められた(S90:9個体)。

4. 研究成果

イサザへの温暖化の影響を評価する上での基礎資料となる。

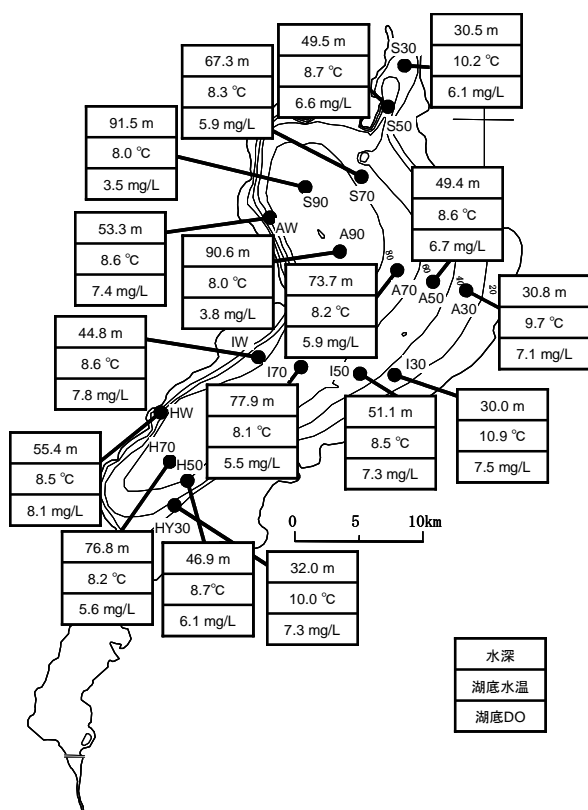


図1 琵琶湖北湖における調査地点と水深、深層の水温および溶存酸素量(2010年10月)。

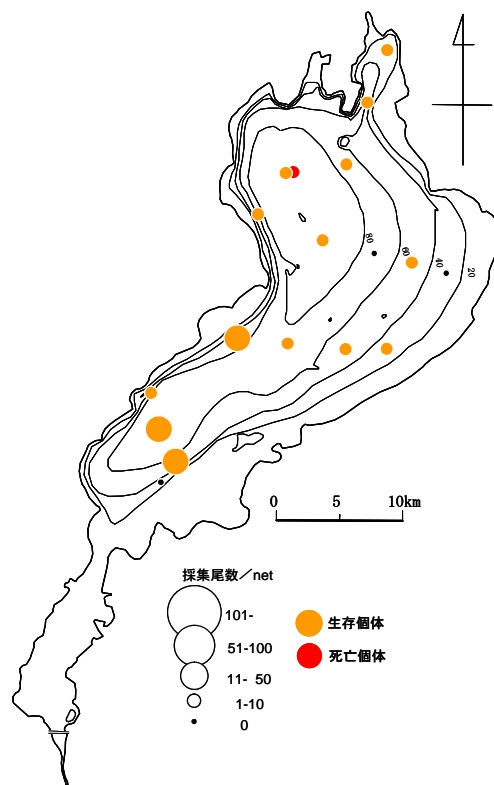


図2 琵琶湖北湖における沖曳き網調査によるイサザの水平分布(2010年10月)。